

3年生小論文講演会

7月22日(水)午後、夏季特別時間割の中、「3年生小論文講演会」を行いました。学研教育みらいの波多野洋司様を講師にお招きし、「希望進路実現に向けて～小論文の要点、勝てる答案とは、鳥の目・虫の目、志望理由書の意義」と題して、約90分、お話していただきました。76名の3年生が出席しました。講演の後、個別質問にも多くの生徒が順番を待ち、アドバイスを受けました。波多野先生、どうもありがとうございました。

3年生は、7月25日(土)第1回小論文模試を受験しました。

第2回小論文講演会は、1月下旬、センター試験終了後に開催予定です。





【参加生徒の感想より 抜粋】

- 小論文の話だけでなく、日々の生活の中にたくさんのヒントがあることや、まだまだ自分の気持ちがあこがれで終わっていることに気づくことができた。
- 小論文のポイントだけでなく、本番を迎えるまでの心構えを含めて、受験生として大事なことをたくさん教えていただいた。
- 自信のなかった小論文だったが、自分の周囲にヒントが転がっていることを聞いて心強い気持ちになった。
- 抽象度が高いものは、具体例が生きてくることがわかった。試験官に伝える内容も大事だが、伝え方も大切だと深く実感した。
- 「グローバル」な視点をもつために、調査し、材料を集めようと思う。
- 自分の決意の甘さを実感した。自分がこの社会の一員で、世界の一員なのだという主体性をもちたいと強く思った。
- 受験は合格する意志が必要であると実感した。そのためには、下積みや積極性が大きなカギを握ることもわかった。
- 小論文を書くことは、大学に合格するためだけでなく、その先の人生にもつながるのだと思った。また、日頃から、人の話を聞くときに、「聞く姿勢」を意識しようと思った。
- 字の話になったとき、自分は字がきたないので、はっとした。